

がん検診といのちを考える－胃がんを中心に－

日時 平成27年3月8日(日) 13:30～15:40

場所 倉吉交流プラザ 2階視聴覚ホール

13:30 開会

あいさつ 鳥取県立厚生病院 院長 井藤久雄

13:35 講演

1 中部地区胃がん検診の現状

演者:秋藤洋一(鳥取県立厚生病院 医療局長)

2 胃がんとは

演者:野口直哉(鳥取県立厚生病院 消化器内科部長)

(休憩)

14:35 シンポジウム「胃がん検診受診率向上を目指して」

コーディネーター: 秋藤洋一

シンポジスト: 吉田良平氏(中部総合事務所福祉保健局副局長)

山本邦彦(法名 邦道)氏

(鳥取県青少年育成アドバイザー協議会会長)

笠見猛氏(北谷地区自治公民館協議会会長)

野口直哉(医師)

意見交換

15:40 閉会

主催 鳥取県立厚生病院

共催 鳥取県中部総合事務所福祉保健局
倉吉市立図書館

後援 鳥取県健康対策協議会 (公社)鳥取県医師会 (公社)鳥取県中部医師会
(一社)鳥取県診療放射線技師会 (一社)鳥取県臨床検査技師会
鳥取県細胞検査士会 (一社)鳥取県薬剤師会 (公社)鳥取県看護協会
倉吉市 三朝町 湯梨浜町 琴浦町 北栄町 (公財)鳥取県保健事業団
(株)新日本海新聞社

講演の概要 outline

1 中部地区胃がん検診の現状

秋藤 洋一 (鳥取県立厚生病院 医療局長)

【略歴】

1980年 自治医科大学卒業

2009年 鳥取県立厚生病院内科部長

2010年 現職

【専門分野等】

日本内科学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器がん検診学会認定医ほか

鳥取県はがんで亡くなる人が多く、全国順位も悪いです。なかでも中部は胃がんの罹患率はそこまで高くありませんが死亡率は高く、受診率(特に内視鏡)が低い状況です。

胃がんの発見率はX線より内視鏡が高く、昨年初めて国が内視鏡検診の死亡率減少効果を認めました。がんの発見が、検診か外来かで5年生存率が大きく変わるため、症状がないうちに検診で見つけることがとても大切です。

中部は後期高齢者医療費が高く、その分住民負担も大きくなっています。がんの早期発見が医療費削減に繋がります。検診は義務ではなく住民にとっての権利。みなさんに検診を受けてほしいと思います。

2 胃がんとは

野口直哉 (鳥取県立厚生病院 消化器内科部長)

【略歴】

1995年 弘前大学医学部卒業、鳥取大学第二内科入局

2001年 鳥取県立厚生病院内科勤務

2010年 現職

【専門分野等】

日本消化器内視鏡学会専門医

腹痛などの症状が出てからみつかるとは、進行して見つかることが多いです。治療で治る胃がんを見つけるためには、検診を受けていただくことが重要となります。

ですが、検診を受診される方は低迷しています。

今日は胃がんについてお話し、理解を深めていただき、検診に足を向けていただく方が増えるきっかけになればと考えています。

テーマ「胃がん検診受診率向上を目指して」

中部地区での胃がん検診受診率向上に向けた様々な取り組みについてそれぞれの立場からお話しいただくとともに、がん体験者様の体験談を通じて、皆様と一緒に検診の大切さについて考えたいと思います。

コーディネーター 秋藤洋一（鳥取県立厚生病院 医療局長）

シンポジスト

〔行政〕吉田良平（鳥取県中部総合事務所福祉保健局副局長）

中部では胃がん死亡率が高く、その背景として、胃がん検診受診率が低いため、早期がんで発見される割合が少なく、進行がんになってから発見されることが多いということがありました。対策として、中部弁を活用したマスメディアによる啓発、啓発用DVDの作成、市町村と合同での街頭キャンペーンや健康教育の推進、かかりつけ医からの受診勧奨、企業への働きかけなどを3年間行い、その結果、胃がん検診受診率の向上がみられました。今後とも、地域の方々と共に受診率向上に努めたいと思います。

〔がん体験者〕山本邦彦(法名 邦道)様(鳥取県青少年育成アドバイザー協議会会長)

集団検診の結果、精密検査が必要と云われ、内視鏡検査を受け胃がん宣告。「癌と聞き 色即是空と 我に云い」。入院・手術。その後の経過と心境をお話します。誰もががんにはなりたくない。第一、どこも悪くない。だから検診も受けない。本当にそれで良いか？自覚症状があれば、その時は既に相当に進行しており、手術しても転移が心配、抗がん剤治療も必要となり、余命も短くなってしまいます。特に胃がんは早期発見で完治する率が非常に高くなります。私は早期発見できて日々の命の大切さを実感し感謝しています。

〔住民代表〕笠見 猛 様(北谷地区自治公民館協議会会長)

倉吉市自治公民館連合会では26年度、検診の受診率向上を重要課題と捉え、県外の先進地視察を行いました。これを踏まえて市内全13校区毎で検診受診の現状を把握し要望を取りまとめ、倉吉市長、部長との意見交換を行いました。私の地元である北谷地区でも行政無線での呼びかけや専用回覧板の作成など、「手を変え品を変え」住民が主体となった取組みを行っています。併せて私自身のがん体験についてもお話したいと思います。

〔医師〕野口直哉(鳥取県立厚生病院 消化器内科部長)